

【富士吉田市】 校務 DX 計画

（１）自己点検を踏まえ、チェックリストに示されている課題や、その解決策

富士吉田市では市独自のシステムを使用し、学校と保護者、児童生徒間の連絡のデジタル化を行っている。加えて学校現場と市教育委員会間の文書伝達もメッセージ機能などで送ることでペーパーレス化を進めている。

課題として見受けられる部分については以下が挙げられる。

- ・独自のシステムを使用する中で、保護者及び児童生徒データを手入力にて更新をかける必要があり、学校現場、市教委に多大な負担がかかっている。改善のために次期統合型校務支援システムの共同調達へ参加し、不必要な手入力作業の減少を図る。
- ・学校現場と市教委間の各種調査について、紙文書やFAXでの提出が行われることがあるので、不要なFAXの使用や不必要な押印を廃止し、システムを利用した資料作成、回答を行えるよう業務フローを見直す。

（２）次世代の校務システムの導入に向けた検討について

○検討内容及び方針

当市では、統合型校務支援システムの一部機能と市独自の校務システムを併用しており、通常の校務については独自システムを使用している。学校現場の声を反映させながら適宜仕様をカスタマイズすることで業務効率の向上に一部繋げているが、弊害として、市外より異動してきた教職員はシステムを一から覚えなければならず、通常の年度当初業務に加えて非常に負担が掛かっている。したがって、県を主導とした次期統合型校務支援システムの共同調達に参加し、令和8年4月より、県下で統一されたシステムを使用し業務運用を行っていく。

○アクセスの制御による対策(ゼロトラスト)整備

現行の運用はネットワークを3層に分離することでセキュリティを担保する環境となっている。それにより強固なセキュリティを保つことができているが、反面、電子ファイルの中継が必要なこともあり、管理職不在の際に業務に滞りが発生するなど働き方に負担がかかる面も存在した。

そのため、三層分離型からネットワーク環境を一つにし、各システム類にアクセス制限をかけることでセキュリティを担保するゼロトラスト型への移行を行い、その中で次期校務支援システムを運用していく。電子データのやり取りや教職員同士でのデータ共有をスムーズに行える環境を整えることで、不必要な業務上の滞りの解消へ繋げる。新環境での校務を恙なく行うために、ゼロトラスト型に対応したインフラを整備する。